



2013.10.8

Tel 080-3451-8400

E-mil hasshoren8.zim@softbank.ne.jp



年会費変更についての説明とお願い

9月の例会は、3日に対市予算交渉がありましたので、1回お休みとしました。
そこで今回は例会報告の代わりとして、年会費の変更について少し詳しくお知らせします。

先ず、今年度の年会費の振り込み用紙について、通信への同封が例年に比べ大幅に遅くなりましたこととお詫び致します。会計の手続き上の問題があり準備が遅くなりました。今号に年会費一覧表と共に同封しましたので、可能な限り早い時期の納入をお願いします。

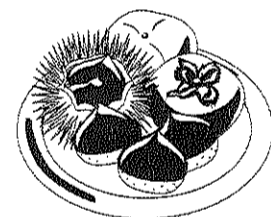
5月の総会でもお知らせしておりますが、今年度会費額の整理と適正化を行い、多くの団体で額の変更が生じております。年会費の適正化の問題はもう10年以上前から課題となっていました。丁度「自立支援法」の成立を初めほとんどの団体が運営の支えとしている福祉制度の大きな転換期に差し掛かり、各団体の法人化と法内移行により、その変化の行く末がなかなか読めない時期が続いたため、ある程度状況が落ち着くまで先延ばしにしてきました。そんな中で、昨年度で東京都の通所事業所への補助制度が終了し、残されていた数カ所の法内移行もようやく決着を見たことから、今年度これまで曖昧としていた部分の明確化も含め、20数年ぶりに会費額の整理変更を行いました。

今回の変更には以下のポイントがあります。

1. これまで曖昧になっていた「団体」の規定を、「法人等一組織内の最小単位、すなわち一事業所およびそれを有しない一任意グループとし、複数の事業所等を有する法人等の統括組織は対象としない。但し、賛助会員は口数会費のため適用はしない。また、事業所の単位は一棟を一事業所とし、ユニット(主従関係)の場合も基本的にそれぞれを別の事業所とみなす。但し、一組織内で何団体・事業所が加盟するかは、その法人・組織内の判断に委ねる」と、規約に追加し明確化しました。
2. 発足当初から団体の形態・種別が増える度に追加し、結果7ランクという解りにくくなっていた金額のランクを、3ランクに整理し団体会員の上限を15,000円、下限を団体賛助会費の一口分と同じ3,000円とし、個人賛助会費のみ一口2,000円とすることでより明確にしました。
3. 一事業所内で複数の事業を行っている場合は、基本となっている事業を会費額算出の第一根拠としています。

尚、今回の会費額の整理変更に伴い、一部で値上がりする団体もあります。例としては、下限を団体賛助会費の一口分と設定したため、任意団体の多くが1,000円の値上がり。法内移行に伴う事業の変更、また新規事業所の開設等による値上がり。主にこういったところですが、大幅に値上がりが見込まれる団体とは事前にご相談し、出来る限りご負担にならないように心がけてきました。改めて、ご理解を頂けるようお願い致します

<文責/夢田>



事務局通信 Vol.4

去る9月12日、残暑がまだまだ厳しい中を、市の都市交通活性化協議会に出席してきました。この協議会は前回のこの欄でも取り上げた。市民参画の基行われている委員会の一つで、元々は都市循環バス(はちバス)の運行協議会を拡大再編し、より広い範囲での交通の問題を検討する機関として設けられ、バリアフリー問題の当事者委員として、八障連からも発足当初から参画しています。

会議は年間3・4回のペースで開催されており、今回が通算20回目となります。出席者としては市の都市交通課を事務局に、関係する各部の部長を初め、鉄道を除く路線バス・タクシー等の交通事業者、市内三つの警察署、さらには国の管轄機関の国土交通省の関係者も入っています。一方、市民参画として八障連の他には老人会、町会連合それぞれの役員と公募市民の2名といったところです。

内容的には、過疎化の始まった山間部のバス路線が収益面の問題で廃止されることがここ数年増えており、その解決策の模索が最大の課題となっています。それ以上については、正直なところこの欄で扱い切れる量ではないので割愛させていただきますが、一言で表現すると障害者団体を代表しての意見よりも、一市民としての意見を述べるのがここ何回かは多くなっています。

尚、この協議会の過去の資料をブログに入れてありますので、興味のある方はぜひそちらをご覧ください。但し、毎回かなりの量となりますので、心してご覧頂くことをお勧めして、今回の報告の〆とします。

<文責/夢田>



いや、決まりましたねえ(^_^)2020年!東京オリンピック\(^0^)/杉浦は今度もヨソの国の別の都市になるのではと思っておりました。

だってマドリードもイスタンブールも、とてもステキな街ですからね。もちろん東京もよい街だとは思っていましたが、オリンピック委員会の人たちの目に、昨今の東京が、日本がどう映るのか、ということを見ると、正直な話、勝ち目があるとは思っていませんでした。とにかく無事に決まってよかったです。

オリンピックも楽しみですが、障害当事者として気になるのはやはりパラリンピックでしょう。そこで今回は、パラリンピックがどういう大会なのか、いつ頃に、どこから始まったものなのか、自分自身の勉強もかねてまとめてみることにしました。例によって長くなってしまいましたが、ご容赦ください。以下、パラリンピックについて詳しくご存じない方々の参考にしていただければ幸いです。

■歴史 治療・訓練から自発的なスポーツへ

障がいのある人々が身体運動を行っていたという記録は、なんと紀元前からすでに見られたようです。また、医師や体育指導者により「治療体操」としてスポーツが行われるようになったという記録も残されています。

しかし、障害当事者自身が組織を作り自発的にスポーツ活動をはじめたのは、19世紀以降のことでした。1888年、ドイツでは聴覚障害者のためのスポーツクラブが創設され、さらに1910年にはドイツ聴覚障害者スポーツ協会が創設されました。また、第一次世界大戦(1914~1917年)後は、イギリスで身体障害者自転車クラブや英国片上肢ゴルフ協会が創立されるなど、障害のある人々が自発的にスポーツを楽しむようになったということです。

国際的な障害者のスポーツ大会は、1924年に設立された国際ろう者スポーツ連盟(CISS)が、同年にパリで開催した第1回国際ろう者スポーツ競技大会(現デフリンピック)がはじめてでした。

■パラリンピックの原点

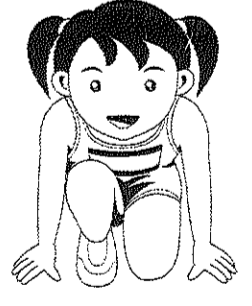
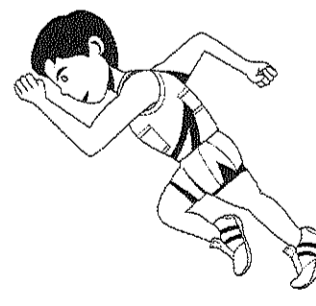
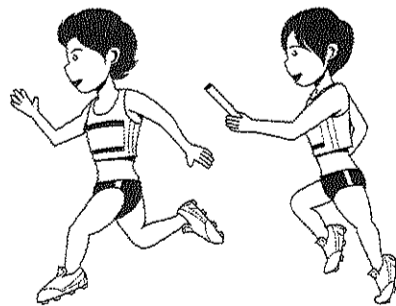
20世紀初頭から、散発的な障害者のスポーツ大会は記録されていましたが、現在のパラリンピックへと発展した原点は、第二次世界大戦(1939~1945年)後のことでした。

1944年、イギリスのチャーチル首相らは、ドイツとの戦争激化により負傷し脊髄損傷になる兵士が急増することを見越して、兵士の治療と社会復帰を目的に、ロンドン郊外にあったストーク・マンデビル病院内に脊髄損傷科(Spinal Unit)を開設しました(1953年に国立脊髄損傷センターと改名)。その初代科長に、1939年にナチスによるユダヤ人排斥運動によりイギリスに亡命した神経学者、ルードウィヒ・グットマン卿(Sir Ludwig Guttmann)が任命され、スポーツを治療に取り入れる方法を用いた(1944年にパンチボール訓練を導入、その翌年からは車いすによるポロやバスケットボール、卓球などを導入)ことから後年、「パラリンピックの父」と呼ばれました。

1948年7月28日(文献によってはロンドンオリンピックの開会式の日とあるため29日の開催だった可能性もある)、グットマン卿は戦争で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念を提唱。この日、ロンドンオリンピックにあわせてストーク・マンデビル病院内で16名(男子14名・女子2名)の車いす患者(英国退役軍人)によるアーチェリー大会を開催。これがパラリンピックの原点です。グットマン卿は、この当時すでに「将来的にこの大会が真の国際大会となり、障害を持った選手たちのためのオリンピックと同等な大会になるように」という展望を語っていました。

この競技会は当初、純然たる入院患者のみの競技大会であったが、毎年開催され続け、1952年にはオランダの参加を得て国際競技会へと発展し、1952年には国際大会となり、第1回国際ストーク・マンデビル競技大会が開催された(2カ国130名が参加)。

次回に続きます



今後のスケジュール

10月 17日 (木)	例会	18時~20時	ヒューマンケア協会
11月 14日 (木)	運営委員会	18時~20時	クリエイトホール(予定)
11月 21日 (木)	市議との懇談会	18時~20時	未定
12月 19日 (火)	例会	18時~20時	クリエイトホール(予定)

